

1. 様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	宮崎学園短期大学
設置者名	学校法人宮崎学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	保育科	夜・通信	0	0	10	10	7	
	現代ビジネス科 ビジネスコース	夜・通信		16	19	7		
	現代ビジネス科 医療事務・医療秘書コース	夜・通信		3	23	26	7	
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページ「情報公開 実務家教員担当科目一覧」 http://www.mwjc.ac.jp/outline/pdf/2019jitumukakyouin.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・ 通信制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の 単位数又は授 業時数	省令で定める 基準単位数又 は授業時数	配置 困難
	記入不要				
		通信			
		夜・ 通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	宮崎学園短期大学
設置者名	学校法人宮崎学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人宮崎学園ホームページ 「法人組織 役員・評議員名簿」 https://www.miyagaku.ed.jp/houjinhonbu/files/meibo.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
白川 智			
鑑 和俊			
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	<div style="background-color: yellow; text-align: center; padding: 20px;"><h1>記入不要</h1></div>

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宮崎学園短期大学
設置者名	学校法人宮崎学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバス作成においては、次の内容について明記することとしている。</p> <p>(1) 授業科目基本情報 科目名・担当者・授業対象・開講時期・単位数・授業形態</p> <p>(2) 授業目標</p> <p>(3) ディプロマポリシーとの関わり</p> <p>(4) 授業内容</p> <p>(5) 授業外学修の具体的内容及び時間・指示</p> <p>(6) 授業時間数</p> <p>(7) オフィスアワー</p> <p>(8) 教科書・参考書</p> <p>(9) 課題に対するフィードバック</p> <p>(10) 成績評価方法</p> <p>提出されたシラバスは、教務部内にて要件を満たしているか確認を行っている。シラバスは、入学時に冊子で学生に配布しているほか、本学ホームページにて公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学ホームページ「情報公開 シラバス」 https://www.digib.net/2019/S/2_22490_TS4/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修成果は、各授業シラバスに明記された成績評価の方法にて評価される。単位認定の基準は、ディプロマポリシーとの関連において当該科目が担う学修成果を最低基準としてシラバスに示してある。卒業認定については、教育課程に定める卒業に必要な授業科目の単位認定に基づく。</p> <p>成績評価については、授業科目における課題や試験等をもとに、学修成果の獲得度を評価している。これらの評価は、最終的に、科目担当教員による成績評価(100点法)により判定され、学生へは4段階評価(優・良・可・不可)で評価されたものを通知する他、GPによる成績評価によって得られたGPAも通知し、学期GPAが1.5未満の学生に対しては個別指導を行う。2学期連続して学期GPAが1.5未満の場合は、保証人(保護者等)同席での指導を行う。これらの指導を受けてもなお学習態度に改善が見られない場合は、退学勧告を行うことがある。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では成績を「優 (80~100点) 良 (66~79点) 可 (60~65点) 不可 (59点以下)」で表し、加えて、GPによる成績評価も次のように行っている。

評価	100点満点での評価	GP (評価点)	評価基準
A	90点以上	4.0	到達目標を達成し、極めて優秀な成績をおさめている
B	80点~89点	3.0	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている
C	70点~79点	2.0	到達目標を十分達成している
D	60点~69点	1.0	到達目標を最低限達成している
F	59点以下	0	到達目標を達成していない

上記の評価方法は、学生便覧及び本学ホームページで公表している。成績評価は、学内で定めた成績評価ガイドラインに沿って評価されており、学内で成績評価を点検する委員会を設置し、公平・公正な成績評価がなされるような仕組みとなっている。成績評価については4段階評価並びにGPA評価結果を本学ホームページにおいて公表している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

本学ホームページ 「情報公開 学習成果に係る評価及び卒業または修了の認定にあたっての基準」
http://www.mwjc.ac.jp/outline/pdf/2017_rishuuhouhou.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学の卒業の認定方針 (学位授与の方針) は以下のとおりである。

- I 自他を大切にし、礼儀正しく行動できる。(礼節、人間尊重の精神)
- II 自己と環境をより良くできる。(勤労、問題解決力)
- III 適切に情報を集め、しっかり考え、それを分かりやすく説明できる。(リテラシー)
- IV 多様な人々とコミュニケーションをとり、協力できる。(協働力)
- V 大学で学ぶ専門的知識や技能を实际場面で活用できる。(実践力)

この学位授与の方針は、学生便覧やポートフォリオに記載するとともに、本学ホームページで公表している。加えて、各学期終了時に、学生は学位授与の方針に沿って設定されたルーブリック指標を基に自己評価を行い、その到達度を定期的に確認している。

また、本学では、学則第8条に定める科目及び単位 (62単位以上かつ総合科目を含む一般教育科目14単位以上、専門教育科目48単位以上) を修得し、授業料完納したのものには、教授会の議を経て卒業を認定し、学位規程の定めによって、短期大学士の学位を授与する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

本学ホームページ 「ディプロマポリシー」
<http://www.mwjc.ac.jp/outline/diploma.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	宮崎学園短期大学
設置者名	学校法人宮崎学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人宮崎学園ホームページ 「情報公開 決算の概要」 https://www.miyagaku.ed.jp/houjinhonbu/files/kessan_2018.pdf
収支計算書又は 損益計算書	学校法人宮崎学園ホームページ 「情報公開 決算の概要」 https://www.miyagaku.ed.jp/houjinhonbu/files/kessan_2018.pdf
財産目録	学校法人宮崎学園ホームページ 「情報公開 財産目録」 https://www.miyagaku.ed.jp/houjinhonbu/files/zaisan_2018.pdf
事業報告書	学校法人宮崎学園ホームページ 「情報公開 事業報告書の概要」 https://www.miyagaku.ed.jp/houjinhonbu/files/jigyo_2018.pdf
監事による監査 報告(書)	学校法人宮崎学園ホームページ 「情報公開 監査報告書」 https://www.miyagaku.ed.jp/houjinhonbu/files/kansa_2018.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページ「情報公開 自己点検・評価」 http://www.mwjc.ac.jp/outline/information.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ホームページ「情報公開 大学機関別認証評価(財団法人短期大学基準協会)」 http://www.mwjc.ac.jp/outline/pdf/dai3shahyoka_h24.pdf
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 保育科
教育研究上の目的 (公表方法: 本学ホームページ「情報公開 教育研究上の目的」 http://www.mwjc.ac.jp/outline/pdf/2016_hoikuka.pdf)
<p>(概要)</p> <p>保育科では、教育目標を以下の通りに定め、学生便覧並びに本学ホームページに掲載し周知している。</p> <p>【教育目標】</p> <p>保育科は、開学以来、建学の精神「礼節と勤労」に基づき、豊かな人間性と教養を備えた保育士・幼稚園教諭の育成を図るとともに、広く地域社会に貢献する人材の育成を目標とする。</p> <p>子どもをとりまく環境や社会が急激に変化するなか、幼保連携（幼保連携型認定こども園）への取り組みが進められるなど保育者に求められる知識や技術は、ますます多様かつ高度なものになってきている。保育科では、このような現代社会が保育者に求める高度な能力を修得するために、アクティブラーニングを用いた各講座や各種実習を通して、乳幼児の実態と保育現場への理解を深め、幼児教育や児童福祉に関する知識や指導技術を深めるとともに、現代の保護者にふさわしい保育や福祉の理念を身に付け、それを実践のなかで体现できる資質を培うことを目標とする。</p>
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 本学ホームページ「情報公開 教育研究上の目的」 http://www.mwjc.ac.jp/outline/pdf/2016_hoikuka.pdf)
<p>(概要)</p> <p>本学では大学全体の学位授与の方針に加えて、学科ごとにも学位授与の方針を定めている。大学全体の学位授与の方針並びに保育科の学位授与の方針は、学生便覧やシラバスに記載しているほか、本学ホームページにて公開している。</p> <p>【保育科 学位授与の方針】</p> <p>①保育者としての社会的使命と責任を自覚し、専門的な知識・技術の修得に努め、常に自己の資質向上に努めることができる。(知識・技能・向上心)</p> <p>②子どもの発達段階や個性を理解し、保育を計画・実践・記録し、子どもに適切な援助や支援を行うことができる。(保育実践力)</p> <p>③同僚・保護者、地域の人々と良好な人間関係を築き、相手を尊重したコミュニケーションをとることができる。(協働力・コミュニケーション力)</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 本学ホームページ「カリキュラムポリシー」 http://www.mwjc.ac.jp/outline/curriculum.html)
<p>(概要)</p> <p>本学では学位授与の方針に基づき、教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）を以下の通り定めている。この方針は学生便覧に記載しているほか、本学ホームページにて公表している。</p> <p>1. 本学の建学の精神「礼節・勤労」に基づく人間性豊かな人材を育成するために、人間尊重の精神と問題解決力を身につけることを目的とした 全人的教育、自己・社会理解に基づく職業意識の形成を目的としたキャリア教育、種々のリテラシーの獲得を目的とした教養教育科目を配置する。</p> <p>2. 全学科共通の一般教育科目及び各学科に設置する専門教育科目では、教養的知識及</p>

<p>び専門的知識の習得を目指すだけではなく、少人数演習型、学生参加型、地域参加型の授業実践を通して、学生のコミュニケーション力、協働力の育成に努める。</p> <p>3. 各学科の教育目標に示された人材を育成するために、各学科及びコースに設置する専門教育科目では、演習、実習、インターンシップを通じた実践的な学びを重視することで、実際場面で活用できる専門的知識や技能を高め、地域社会を担い、地域社会に貢献できる人材を育成する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：本学ホームページ「アドミッションポリシー」 http://www.mwjc.ac.jp/outline/admission.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学は、建学の精神「礼節・勤労」のもと、地域に根ざした短期大学として歴史を刻んでいる。本学が目指すのは、豊かな人間性と専門知識を身につけ、他者と協力しながら社会の一員としての役割を果たすとともに、よりよい方向へ進むための思考力と実践力を兼ね備えた人材の育成である。</p> <p>そこで、本学では入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）を以下の通り定め、学生募集要項や大学案内並びに本学ホームページにて公表している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学で豊かな人間性と専門知識を身につけたいという意欲のある人。（意欲） 2. 本学で学ぶに必要な基礎学力を備えている人。（基礎学力） 3. 自他を大切にし、自己と環境をよりよくしようとしている人。（礼節・勤労） 4. 適切に情報を集め、それをもとにしっかり考え、考えたことを分かりやすく表現し伝えようとしている人。（リテラシー・自己表現） 5. 多様な人々とコミュニケーションをとり、協力しようとしている人。（協働力）
<p>学部等名 現代ビジネス科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開 教育研究上の目的」 http://www.mwjc.ac.jp/outline/pdf/2018_gendaibijinesu.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>現代ビジネス科では、教育目標を以下の通りに定め、学生便覧並びに本学ホームページに掲載し周知している。</p> <p>【教育目標】</p> <p>現代ビジネス科は、建学の精神「礼節・勤労」に基づき、激動する経済のグローバル化の中で良識と品性を備えて活躍することのできる社会人を育成することを目標とする。</p> <p>第四次産業革命とも言われる本格的なAI時代の到来や地球規模で変化し続けるグローバル社会の中で、自己の特性を生かして自己実現できる社会人を育成することが求められている。</p> <p>そのために、自分で「考え」「判断し」「行動できる」力である課題解決能力をすべての教育活動を通して身につけるとともに、AIに負けない企画力や想像力、人にしかできない質の高いコミュニケーション力やおもてなし力といったこれからのビジネス社会における必須の資質を育成する。</p> <p>本年度の重点目標として、①授業改善とキャリア教育の充実、②進路支援の充実、③実習指導の充実、④外部機関との連携の推進、⑤学科の内部質保証システムの確立を図る。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：本学ホームページ「情報公開 教育研究上の目的」 http://www.mwjc.ac.jp/outline/pdf/2018_gendaibijinesu.pdf)</p>

(概要)

本学では大学全体の学位授与の方針に加えて、学科ごとにも学位授与の方針を定めている。大学全体の学位授与の方針並びに現代ビジネス科の学位授与の方針は、学生便覧やシラバスに記載しているほか、本学ホームページにて公開している。

【現代ビジネス科 学位授与の方針】

- ①社会人としての力を身につけ、各分野の専門的知識・技能を活かして社会に貢献することができる。
- ②教養を深め、自らを磨こうとする努力を継続することができる。
- ③自他を尊重して、さまざまな場でコミュニケーションを図ることができる。

さらに、現代ビジネス科がもつビジネスコース及び医療事務・医療秘書コースそれぞれにも学位授与の方針を定めている。

【ビジネスコース】

- (1) ビジネスに関する基礎から応用までのスキルをもとに、自分自身の仕事観を身につけている。
- (2) 思考する力を持ち、将来のスペシャリストとして学び続ける能力を身につけている。
- (3) コミュニケーション能力を身につけ、社会人として適切な対応をとることができる。

【医療事務・医療秘書コース】

- (1) 医療チームの一員として基本的な技能を身につけ、適切に活用することができる。
- (2) 豊かな心を持ち、スキルアップの努力を続けることができる。
- (3) コミュニケーション能力を身につけ、社会人として適切な対応をすることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：本学ホームページ「カリキュラムポリシー」
<http://www.mwjc.ac.jp/outline/curriculum.html>)

(概要)

本学では学位授与の方針に基づき、教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）を以下の通り定めている。この方針は学生便覧に記載しているほか、本学ホームページにて公表している。

1. 本学の建学の精神「礼節・勤労」に基づく人間性豊かな人材を育成するために、人間尊重の精神と問題解決力を身につけることを目的とした 全人的教育、自己・社会理解に基づく職業意識の形成を目的としたキャリア教育、種々のリテラシーの獲得を目的とした教養教育科目を配置する。
2. 全学科共通の一般教育科目及び各学科に設置する専門教育科目では、教養的知識及び専門的知識の習得を目指すだけでなく、少人数演習型、学生参加型、地域参加型の授業実践を通して、学生のコミュニケーション力、協働力の育成に努める。
3. 各学科の教育目標に示された人材を育成するために、各学科及びコースに設置する専門教育科目では、演習、実習、インターンシップを通じた実践的な学びを重視することで、実際場面で活用できる専門的な知識や技能を高め、地域社会を担い、地域社会に貢献できる人材を育成する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：本学ホームページ「アドミッションポリシー」
<http://www.mwjc.ac.jp/outline/admission.html>)

(概要)

本学は、建学の精神「礼節・勤労」のもと、地域に根ざした短期大学として歴史を刻んでいる。本学が目指すのは、豊かな人間性と専門知識を身につけ、他者と協力しながら社会の一員としての役割を果たすとともに、よりよい方向へ進むための思考力と実践力を兼ね備えた人材の育成である。

そこで、本学では入学者の受入に関する方針（アドミッションポリシー）を以下の通り定め、学生募集要項や大学案内並びに本学ホームページにて公表している。

1. 本学で豊かな人間性と専門知識を身につけたいという意欲のある人。（意欲）
2. 本学で学ぶに必要な基礎学力を備えている人。（基礎学力）
3. 自他を大切にし、自己と環境をよりよくしようとしている人。（礼節・勤労）
4. 適切に情報を集め、それをもとにしっかり考え、考えたことを分かりやすく表現し伝えようとしている人。（リテラシー・自己表現）
5. 多様な人々とコミュニケーションをとり、協力しようとしている人。（協働力）

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページ「教員組織、各教員が有する学位及び業績」
<http://www.mwjc.ac.jp/outline/pdf/2019soshikizu.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
保育科	—	6人	8人	10人	1人	0人	25人
現代ビジネス科	—	3人	1人	3人	0人	0人	7人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		61人					61人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：本学ホームページ「教員の学位・業績等（教員一覧）」 https://www.mwjc.ac.jp/teacher					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD推進委員会が企画・運営を行い、定期的にFD研修会を実施している。昨年度は計5回のFD研修会を開催しており、出席率は約80%であった。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
保育科	210人	197人	93.8%	420人	408人	97.1%	0人	0人
現代ビジネス科	50人	38人	76.0%	100人	75人	75.0%	0人	0人
合計	260人	235人	90.4%	520人	483人	92.9%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
保育科	205人 (100%)	14人 (6.8%)	179人 (87.3%)	12人 (5.9%)
現代ビジネス科	44人 (100%)	1人 (2.3%)	42人 (95.4%)	1人 (2.3%)
合計	249人 (100%)	15人 (6.0%)	221人 (88.8%)	13人 (5.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 金融機関、情報通信業、卸・小売業、医療機関、保育園、幼稚園、福祉施設等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
保育科	221人 (100%)	204人 (92.3%)	3人 (1.4%)	15人 (6.8%)	0人 (0%)
現代ビジネス科	48人 (100%)	44人 (91.7%)	0人 (0%)	4人 (8.3%)	0人 (0%)
合計	269人 (100%)	248人 (92.2%)	3人 (1.1%)	19人 (7.1%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関しては、シラバスに記載した上で、学生に冊子を配布する他、本学ホームページにて公表して広く一般に示している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学修成果は、各授業シラバスに明記された成績評価の方法にて評価される。単位認定の基準は、ディプロマポリシーとの関連において当該科目が担う学修成果を最低基準としてシラバスに示してある。卒業認定については、教育課程に定める卒業に必要な授業科目の単位認定に基づく。 成績評価については、授業科目における課題や試験等をもとに、学修成果の獲得度を評価している。これらの評価は、最終的に、科目担当教員による成績評価（100点法）により判定され、学生へは4段階評価（優・良・可・不可）で評価されたものを通知する他、GPによる成績評価によって得られたGPAも通知し、学期GPAが1.5未満の学生に対しては個別指導を行う。2学期連続して学期GPAが1.5未満の場合は、保証人（保護者等）同席での指導を行う。これらの指導を受けてもなお学習態度に改善が見られない場合は、退学勧告を行うことがある。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	保育科	62単位	有・無	30単位
	現代ビジネス科	62単位	有・無	30単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：本学ホームページ「情報公開 GPA分布」 http://www.mwjc.ac.jp/outline/pdf/2019seisekibunpu.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： 【学修状況】本学ホームページ「情報公開 学生生活調査結果」 http://www.mwjc.ac.jp/outline/pdf/2018gakuseiseikatu.pdf 【学位取得状況・資格取得等実績】 http://www.mwjc.ac.jp/outline/pdf/2018gakuisikakusyutoku.pdf		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ホームページ「施設紹介」

<http://www.mwjc.ac.jp/campus/facilities.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	保 育 科	540,000 円	200,000 円	303,000 円	施設費、実験実習費、図書費、 ビア/実習費
	現代ビジネス科	540,000 円	200,000 円	288,000 円	施設費、実験実習費、図書費
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) <p>学修支援推進委員会を中心に、学生の修学に係る支援を行っている。対象となる学生については個別の支援計画を作成し、支援を行う。支援の体制としては学科長や学級主任のほかに、各学科にコーディネーターを配置し、一人ひとりのニーズに応じて支援チームを整えたり、支援を依頼したりするなど、組織的な支援体制の構築を図っている。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) <p>進路選択については、就職指導課に専任の職員を配置し、進路選択に係る支援を担っている。就職指導課では、求人情報、企業情報、受験報告書、業種や筆記試験に関する書籍等の閲覧ができる。また長期休業中の求人についてはポータルシステムを通じ、学生に情報の提供をしている。さらに就職指導課の専任職員が全学生と面談を行い、希望職種や地域などを聞き取り、就職活動に関して助言を行い、質問や履歴書の作成、面接練習などの要望にも応えている。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) <p>養護教諭の資格を持つ職員が常時保健室運営に当たっている。4月に内科検診や胸部レントゲンを行い、学生一人ひとりの健康状態を把握している。また怪我や体調不良に対する応急処置等に努めている。年度初めにUPI検査を実施し、その結果については臨床心理士の資格をもつカウンセラーが取りまとめ、学業不振、不登校、うつ病、大学不適應などの早期発見・早期介入に努めている。保健室の職員、カウンセラー、学級主任が必要に応じて情報を共有し、学生の心身の健康等に係る支援の充実を図っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ「情報公開 自己点検・評価」 https://www.mwjc.ac.jp/outline/pdf/2018_jikohyokakyoin.pdf
--

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
修業 年限	昼夜	記入不要			業の種類		
					実験	実技	
年	単位時間/単位				単位時間/単位		
	生徒総定員数				生徒実員	うち留学生数	専任教員数
	人	人	人	人	人	人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要）
成績評価の基準・方法 （概要）
卒業・進級の認定基準 （概要）
学修支援等 （概要）

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格			
(備考) (任意記載事			

記入不要

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
<div style="background-color: yellow; padding: 10px; font-size: 2em; font-weight: bold;">記入不要</div>		
学校関係者評価の		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
